

集う時間心地よい箱を



建築士 宮城雅子さん(38)

博多祇園山笠の伝統を守る博多部(福岡市)の民家を再生した美容室「グラム」。外観は古いたたずまいをそのままに、室内は和の質感を生かしながらガラス張りのトイレなどモダンテイストのじゃれた空間になっている。

「オーナーが欲するものを読み取る。一緒に作り上げるから作品とは呼ばない」。施主本位ながら、自己のテイストをしっかり織り込む巧みさがある。依頼はさまざま。時に困った人を見ると放ってもおけない。

進行中の老朽化した雑居ビルの再生プロジェクトは、提示予算では不可能に近く、再建後も人が入る保証はない。悲嘆にくれるオーナーに笑顔を取り戻してほしいと引き受けた。卒論で「リフォーム授業」を取り上げる大学建築学科の学生の「教材」にしてもらい、塗料や必要な材料の協賛社も得た。住居部分は学内で募集することにし、反応はいいという。

カシヤリ



その企画力は、子供がシェフを務める「こどもカフェ」、日本酒

ぶら 天 通信

の新しい楽しみ方を提案する「日本酒の宴」などにも生かされ、本業以外にも活躍の場は広がっている。「みんなで集う時間をつくるため、(建築の道に進んで)16年間、箱を作ってきたと思える」。最近「時間と空間の設計プロデューサー」請負人を名乗る。

「今後は本業以外にもビジネスベースに乗せ、世界を舞台にした新たなテーマに取り組みたい。私には発信する使命があると思うから」
宮城雅子建築設計事務所 <http://www.miyasimasako.com>

文・幸島朋子
写真・徳野仁子